

## 「第 39 回室蘭市都市計画審議会」議事録

1. 開催日時 平成 31 年 3 月 20 日(水)15:00～16:00
2. 開催場所 室蘭市役所2階 大会議室
3. 出席者 委員:市村 恒士、大橋 祐介、堤 良子、土倉 崇、三村 紀子、早川 昇三、  
森川 卓也、山中 正尚 (敬称略)  
市側:(都市建設部長) 佐藤 肇、(都市政策推進室長) 佐野 正樹  
(都市政策推進課主幹) 佐藤 一徳、佐々木 裕司  
(都市政策推進課都市政策推進係長) 村井 幹男  
(同主査)北村 祐貴 (同主任)門澤 秀斗 (同主任)及川 祐一
4. 報告案件 (1)パブリックコメントの実施結果について 【資料 1】  
(2)室蘭市立地適正化計画(案)について 【資料 2】  
(3)室蘭市都市計画マスタープラン見直しの概要について 【資料 3】【資料 4】
5. 傍聴者 報道関係者 3 名
6. 要旨
  - (1)パブリックコメントの実施結果について
    - ・資料1にて事務局より概要の説明
  - (2)室蘭市立地適正化計画(案)について
    - ・資料 2 にて事務局より概要の説明
  - (3)室蘭市都市計画マスタープラン見直しの概要について
    - ・資料3, 4にて事務局より概要の説明

<質疑・応答>

### 大橋委員

- ・地区割を 9 地区から 3 地区にすることに異論は無いが、現都市計画マスタープランの事業評価をして、その結果を踏まえて 3 地区に変更した。というような整理の方が市民も分かりやすいし、納得出来るのではないか。

### 事務局

- ・3 地区にするというのは、立地適正化計画に基づく誘導区域や、地区ごとのまとまりを示し、とりまとめの単位を表しているイメージ。地区をばらばらに切り捨てるつもりはない。

### 市村会長

- ・計画の事業評価をすることは大事な視点なので、検討して欲しい。
- ・9地区から3地区にするという、マイナスなイメージを持たれる可能性があるので、時代背景などを考慮して新たな単位を設定したというような説明や、表現の仕方を工夫した方が良い。

### 森川副会長

- ・立地適正化計画が完成して、今後都市計画マスタープランも策定していくということだが、市民にはどっちの計画をやっているのか分からず、混同してしまうだろう。
- ・回覧版などでも情報が回っているが、一般の市民には伝わりにくい。
- ・2つの計画がどう違うのか、子供でも分かるような内容にしたり、興味を持ってもらうような内容にするなど、情報発信について工夫が必要。
- ・そうすると、都市計画審議会委員として、町会等へまちづくりの話をする際、「あそこで出ていましたよね」と説明しやすい。

### 市村会長

- ・どのようにまちづくりに興味を持ってもらうのかは、大切な視点。
- ・そこについては、試行錯誤しながら、より効果のある情報発信を続ける事が必要だ。

### 山中委員

- ・住民と一緒にまちづくりをすることが大事だが、長年行政だよりだった市民は、考えをなかなかチェンジできていない。
- ・行政側も様々なまちづくり計画の説明会を開催しているが、庁内で連携が取れていないので、市民も意見がどのように反映されるのか分かっていないと感じる。

### 事務局

- ・庁内での連携については、もちろん連携していく。また、都市計画マスタープランでもワークショップや地区別の説明会などでも市民の意見収集を行う予定なので、どのように意見を反映していくのか、参加者へ分かりやすい説明を心がける。

### 土倉委員

- ・資料については、事前に配布して欲しい。
- ・思いつきでは無く、内容を整理してから意見を言いたい。

### 早川委員

- ・将来的な人口減少については理解できるが、労働人口についてはどのように考えているのか。
- ・工業都市なので、今後外国人の労働力等も加味してまちづくりを検討していく必要があるのではないか。

### 市村会長

- ・立地適正化計画が、人口減少のシミュレーションのみで作っていることについて違和感を感じている。

- 早川委員の仰るように、外国人の労働力のほか、今後可能性のある様々な要因についても、検討していくことが大事だと思う。
- 立地適正化計画についても、細かく PDCA を回して指標や目標を適宜見直していく必要があるだろう。

以上